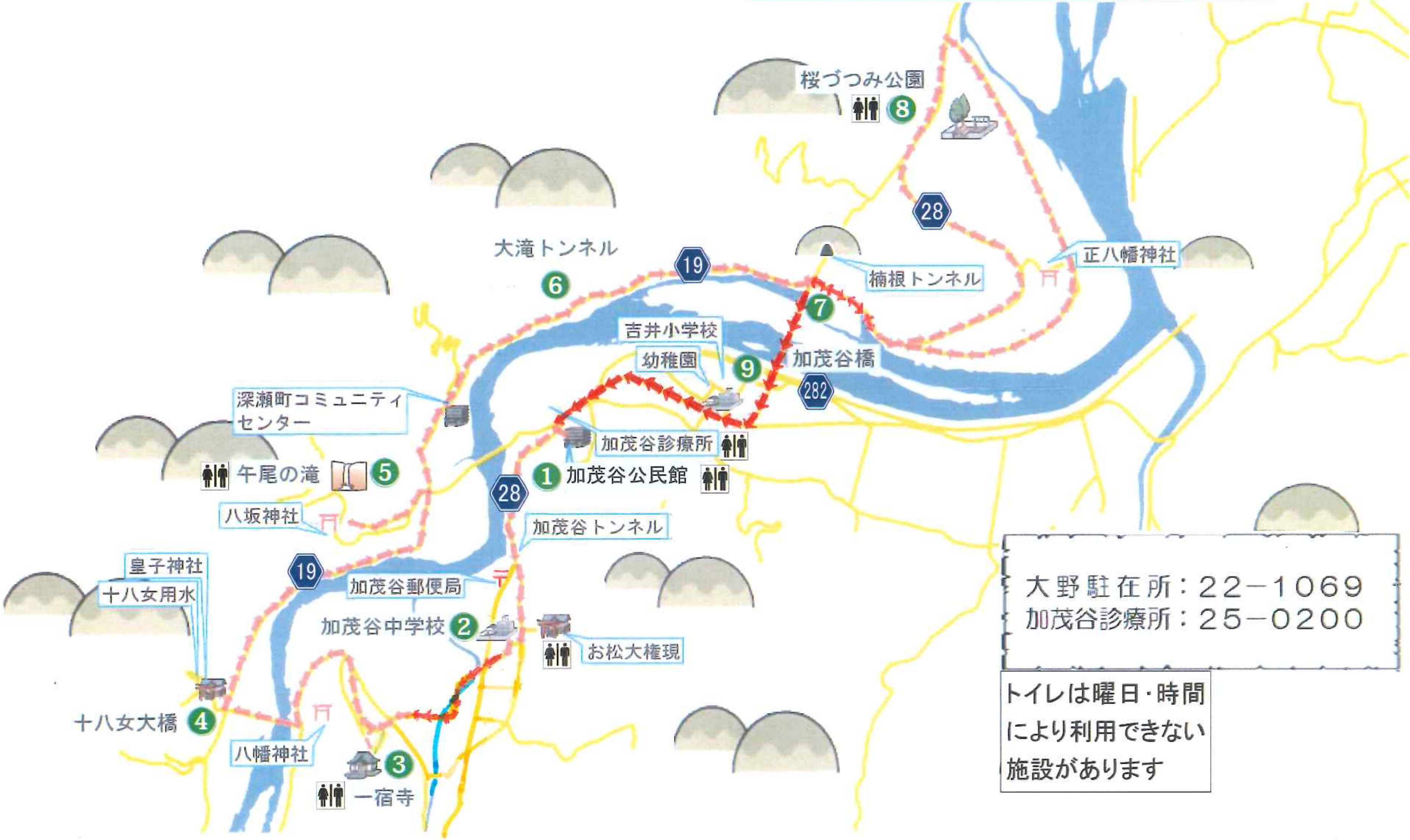
桜づつみ公園に続く道

阿南健康第6番完歩　　加茂谷公民館の道

加茂谷公民館
加茂町野上22－11
TEL（0884）25－0113

加茂谷住民センター
TEL（0884）25－0001



桜づつみ公園
⑧
28
正八幡神社
楠根トンネル
大滝トンネル
⑥
19
⑦
吉井小学校
幼稚園
⑨
加茂谷橋
282
深瀬町コミュニティセンター
加茂谷診療所
① 加茂谷公民館
午尾の滝 ⑤
28
八坂神社
加茂谷トンネル
皇子神社
十八女用水
19
加茂谷郵便局
加茂谷中学校 ②
お松大権現
十八女大橋 ④
八幡神社
③
一宿寺

大野駐在所：22－1069
加茂谷診療所：25－0200

トイレは曜日・時間
により利用できない
施設があります

桜づつみ公園に続く道

阿南健康第6番完歩　加茂谷公民館の道

①加茂谷公民館 ・・・・・・ ②加茂谷中学校 ・・・・・・ ③一宿寺 ・・・・・・
WC 900m 800m WC 1.0km

・・・・・ ④十八女大橋 ・・・・ ⑤午尾の滝 ・・・・・ ⑥大滝トンネル ・・・・
1.6km WC 1.3km 1.0km

・・・・・ ⑦加茂谷橋 ・・・・ ⑧桜づつみ公園 ・・・・・ ⑨加茂谷橋 ・・・・・
2.4km WC 2.0km 1.4km

・・・・・ 加茂谷公民館
WC

●**サトウハチローの詩**　1966（昭和41）年、ＮＨＫに加茂谷中学校野球部が出演し、その番組を見たサトウハチロー氏は、「そこに少年の日がある」という詩を寄贈した。その詩は加茂谷中学校玄関前の石碑に刻まれている。

●**お松大権現**　江戸時代、奉行の不当な裁きを不服として直訴し処刑されたお松という女性の愛猫が、妖怪変化となって、奉行の家などを代々たたり続けて仇を討ったとの伝説が残る。有馬、鍋島の猫騒動とともに、日本三大怪猫伝として名高く、勝負、願い事の神様として知られ、受験シーズンは合格祈願の参詣客でにぎわう。

●**一宿寺**　太龍寺の末寺。弘法大師が太龍寺登山のときに、ここで一宿し、その後、嘉保年間（1094～1095年）に京都東寺の長範僧正も登山の際に一宿した。それが一宿寺の由来である。長範僧正は太龍寺を再興したが、その際、京都から多くの大工などの職人が移り住んだ。その人々の子孫が住んでいるので、ここに醍醐、加茂などの地名が残っていると言われている。

●**十八女（さかり）町という地名**　平家が亡んだとき、安徳帝が御跡隠られたという所は、九州や四国の各地にある。実は安徳帝は姫宮であったが、平相国がわざと男宮と披露して即位させたという説がある。その安徳帝を奉じた平家の一族が、この山の中に落ちてきた。西善太左衛門の庄屋調べによると、当時3歳の姫宮のお供をして湯浅但馬はこの地に来て、萱野を開拓して村を作り、姫宮が18歳になられたので十八女という名にしたという。また、湯浅家の旧宅には「開かずの間」があって、高貴な方が隠れ住んでいたが18歳で亡くなったと伝えられている。

●**皇子神社**　主祭神は安徳天皇と言われており、十八女町は平家の末裔の居住地と伝えられている。例祭は10月2日で、祭礼の時、御輿に付けた注連縄（しめなわ）をいただいて帰り、産婦のお守りとすれば安産になるという。近くに、三十六人塚という平家ゆかりの墓がある。

●**十八女用水**　昔から十八女村は灌漑水に乏しく、干ばつのため不作続きであった。文化（1804～1807年）の頃、水井村で石灰の製造をしていた竹内十郎兵衛はこうした対岸の窮状を聞くや自らの私財を投じて2,640丈（約8km）の用水路を造った。以来、現在も山裾に沿って水が流れている。十郎兵衛の死後、皇子神社下に十郎兵衛（静也翁）の墓と遺愛碑が建てられた。

●**午尾（ごお）の滝**　滝を御神体として水速女命（みずはやめのみこと）を祀り、滝の高さは約30mである。なお、御神体は滝の側の八坂神社に習合されている。また、水の枯れる時期は流れが細くなり、牛の尾に似ていることから「牛尾の滝」とも表される。

●**楠根桜つづみ公園**　楠根町の那賀川堤防にあり、ソメイヨシノをはじめ、たくさんの樹木が植えられていて、市民の憩いの場として利用されている。